

埼玉トヨペット Green Brave



2019 RACE REPORT

【#52 埼玉トヨペット GB マーク X MC】

2019年4月13日(土)～14日(日)

AUTOBACS SUPER GT Round1

OKAYAMA GT300km RACE

岡山国際サーキット(岡山県美作市)

雨の短縮レースで初の3位表彰台を獲得!

埼玉トヨペット Green Brave の SUPER GT 3年目のシーズンが開幕した。第1戦が行われたのは岡山県美作市にある岡山国際サーキット(1周3.703km)。クルマは昨年中盤から急速に速さを身に付けているマーク X MC、ドライバーは脇阪薫一選手と吉田広樹選手の新コンビだ。マーク X MC が出場する GT300 クラスのエントリー台数は29台。

予選日の天候は晴れ。8時50分から行われた練習走行では脇阪選手が1分25秒248のトップタイムをマーク。大きな注目を集める中での予選となった。2人のドライバーの技量はもちろん、冬の間に行ってきたクルマの改良や、新たに導入したブリヂストンタイヤが威力を発揮している。GT300のノックアウト予選(Q1)はA、Bの2グループに分かれて行われ、マーク X MC はAグループに出場。Q1のドライバーは吉田選手。吉田選手は予選開始とともにコースに入り、5周目に1分25秒393のトップタイムをマーク。Aグループ1位となり、Q1をトップで通過した。Q2のドライバーは脇阪選手。脇阪選手は2回目のアタックで1分25秒398をマークするも、順位は4位。脇阪選手はアタックを続け、次の周に午前中のベストを上回る1分25秒091をマーク。順位をひとつ上げ、これまでの最高位となる予選3位を獲得した。ポールポジションの期待が高まっていただけに、脇阪選手は悔しそうな表情だが、これまでの戦いぶりを考えれば予選3位は絶好のポジション。ピットはスタッフの笑顔に包まれた。

決勝日の天候は雨。チームはマザーシャシー+ブリヂストンの優位性を活かした作戦を立てていたが、水をさしたのが激しい雨。雨脚はますます強くなり、セーフティカー(SC)が先導したままレースがスタートする。スタートドライバーは脇阪選手。4周目にSC解除。脇阪選手は予選1位の#55 NSX、同2位の#96 RCFに続いて1コーナーに進入する。しかし、後続でアクシデントが発生。SCが導入される。隊列走行はしばらく続き、11周目にSC解除。ところが13周目、複数のGT300車両が関連する多重クラッシュが発生。コース上は危険な状態となり、赤旗(レース中断の合図)が提示される。約45分の中断の後、SC先導によりレース再開。20周目にSCが解除され、コース上に激しい水煙が上がる。3位を走行している脇阪選手は後続の#56 GT-Rを徐々に引き離すが、23周目にみたびアクシデントが発生。この日5度目のSCが導入される。しばらく隊列走行が続くが、雨が止む気配はなく、31周目に赤旗中断。オーガナイザーの発表に注目が集まったが、最終判断は「30周時点の順位でレース終了、ポイントはハーフ」となった。正式結果はチーム初の3位表彰台。レース後、めざましい活躍が認められたメカニックに与えられる特別賞「ZFアワード」が埼玉トヨペット Green Brave のメカニックたちに贈られ、最高のスタートをきった。



決勝結果 (GT300)

#52 埼玉トヨペット GB マーク X MC

(脇阪薫一/吉田広樹)

決勝: 3位(30周)

予選: 3位(Q1: Aグループ1位)

GT300 決勝結果

1位: K-tunes RC F GT3(レクサス RC F GT3)	30周
2位: ARTA NSX GT3(ホンダ NSX GT3)	30周
3位: 埼玉トヨペット Green Brave マーク X MC(トヨタ マーク X MC)	30周
4位: SUBARU BRZ R&D SPORT(スバル BRZ GT300)	30周
5位: リアライズ 日産自動車大学校 GT-R(日産 GT-R NISMO GT3)	30周

天候: 雨 路面: ウエット ※トップ5まで(出走29台)

DRIVERS VOICE

星野選手がクラッシュしていたので、正直心配でしたが、レースは続いているので、集中してあまり考えないようにしていました。今回のコンディションのようにドライバーで状況を打開できるような状況は好きなので、そこは集中していますし、中止と決まりましたが、いつでもやってやるという気持ちです。この週末、全3セッションで3位以内に残れたのは素直に喜びたいです。想像以上に良い結果で開幕戦を終われたので、あとはポールを獲得したり、優勝したりとか、攻めたレースができると思います。(脇阪薫一選手)

初めてのレースで表彰台に登れたのはすごくうれしかったのですが、ドライでのレースを考えると、優勝争いができていました。ただ、天候に関してはみんな同じ条件ですし、いい方に動くこともあれば、悪い方に動くこともあります。それを言っても仕方がないですね。3位というのはチームにとってベストリザルトですし、4位と違い、表彰台に登ったのはひとつ大きなステップだと思います。予選の走り方、レースの進め方ともに、良かったと思います。自分もまだ2位になったことしかないので、このチームで優勝したいですね。(吉田広樹選手)



MECHANIC VOICE

S耐に参加したことがあるのですが、雰囲気も車両もまったく異なりますね。タイヤマネージメントを担当したのですが、奥が深く、今日のような天気だと、どんなタイヤを使うのかすごく難しい。一個一個の判断が大事になってくると痛感しました。次戦での課題は天気次第の部分もありますが、もう少し精度良く作業を行い、細かいデータをとりたいです。特に重要なのが内圧なので、そこをしっかりとマネージメントしていきたいです。

(所沢北支店・加藤孝昭)



埼玉トヨペット Green Brave PARTNERS 協賛各社



株式会社アシスト・ワン



アルパインマーケティング株式会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



埼玉スリーボンド株式会社



トヨタ部品埼玉共販株式会社



株式会社ハッピーライフ彩生

※50音順

第2戦 2019年5月3日(金)～4日(土) 富士スピードウェイ(静岡県駿東郡)